

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
スポーツ指導論 Theory of Sports leader		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(「スポーツリーダー」「スポーツプログラマー」「ジュニアスポーツ指導員」 資格取得者科目)	身体発育発達論、トレーニング論
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
山内健次	本館2階	木曜・金曜 9:00～16:00 (授業時間中は除く)		授業中に指示します
授業の概要				
地域スポーツ指導者の活躍の場は、児童中心のスポーツ少年団での活動が主であり、技術指導のコーチ的役割の比重が高かった。しかし学校部活動の崩壊によって、地域住民が運営主体となる総合型地域スポーツクラブが多く育ってきていることから、「生涯スポーツ」としての幅広い年齢層への指導が求められている。またクラブ運営も地域住民主体に移行してきているため、クラブ運営のためのマネジメント能力も必要な時代となっている。この講義では現代社会で必要とされる指導者が持つべき知識を学ぶ。				
授業の目標				
①各年齢層に応じた、運動指導の必要性が説明できるようにする。 ②スポーツを楽しんでいた児童や生徒がなぜ、スポーツからバーンアウト(逃避)してしまうのか、その理由を説明できるようにする。 ③指導中に事故が起こらないために、危険予知能力や危険回避能力といったリスクマネジメントを実践することができるようにする。 ④スポーツを楽しむ人が多くなるための、行動変容に結びつくアドバイスができるようにする。				
授業の方法				
講義、学生同士によるロールプレー(指導者と対象者になる)、スポーツ指導案作成および発表の演習授業				
学習の成果(学習成果)				
①青年から高齢者まで、年齢層に応じた運動指導プログラムの構成ができ自分自身で指導ができる。 ②スポーツを行っていない人に対して、スポーツをはじめってもらうきっかけとなるアドバイスができる。 ③スポーツに潜んでいる危険や事故について理解でき、指導者としてその回避方法を導き出すことができる。 ④総合型地域スポーツクラブの運営ができ、同時に指導にもかかわることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業にあたっての態度と注意点、授業内容の確認、成績評価方法、スポーツリーダー・スポーツプログラマー・ジュニアスポーツ指導員資格等について)			
第2回目	スポーツ指導の意義と目標			
第3回目	スポーツ指導者の基本①(求められる指導者像、生涯スポーツのためのスポーツ指導者、ジュニア期のスポーツ指導者)			
第4回目	スポーツ指導者の基本②(生涯スポーツ指導者としての心構え、指導者からの視点の重要性)			
第5回目	競技者スポーツのための指導とその育成プログラムの理念			
第6回目	スポーツと人権			

第7回目	スポーツ指導者のコミュニケーションスキル①
第8回目	スポーツ指導者のコミュニケーションスキル②
第9回目	スポーツ指導者のコミュニケーションスキル③
第10回目	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
第11回目	指導計画の立て方
第12回目	各指導計画の作成
第13回目	各指導計画の発表
第14回目	総合型地域スポーツクラブの運営
第15回目	子どものスポーツ障害と成人のスポーツ障害

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	S評価は私語なく講義に集中し、指示された必要事項をノート等にまとめ記載している。
レポート		
調査報告書	10%	各自が住む「総合型地域スポーツクラブ」について調査する課題
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	60%	各自が考えた運動プログラムについて指導案を作成し、そのプログラムを基として他学生を対象に指導を行い両方を評価の対象とする
その他		

教科書と参考図書

教科書：「健康運動実践指導者養成テキスト」（健康・体力づくり事業財団）

参考図書：「公認スポーツ指導者 養成テキストⅠ・Ⅱ」（日本体育協会）

「公認スポーツプログラマー養成テキスト」（日本体育協会） 「公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト」（日本体育協会）

「現代の体育・スポーツ科学 体力の発達」朝倉書店

履修上の留意点・ルール

・毎回資料プリントを配布する。教室への飲食物は持ち込まない。真剣に授業に取り組み積極的に質問することを望む。